

(提出 5/20)

授業科目名	担当教員名	授業実施日	※
全学教養科目 「学問の面白さを知る」	天野政千代 / 福井先生	4月22日(火)	
学生番号	学部・学科	学年	氏名
01080074-3	文学部 人文学科	1年	杉崎素子

## 「大宇宙の誕生」

宇宙が誕生したのは137億年前。ビッグバンという現象による、小さな空間に集中していたエネルギーが時空を拡大するようになった。「137億年前」という数字が発見されたのは2003年で、同時に現在も宇宙が拡大を続けていることが判明した。私達の住む太陽系が誕生したのは46億年前、地球に生命が誕生したのは38億年前だが、人類の誕生はわずか1000万年ほど前で、宇宙の片端に、こうして生命が生まれたのは奇跡に近い。それは私達人間の体を作る物質も、全宇宙の歴史の中で生み出されてきたものである。例えば水(H<sub>2</sub>O)のうち、水素はビッグバンの瞬間にできたもので、酸素はそれよりあと後に超新星爆発という現象によってできたものだということが、これまでの研究で明らかになっている。太陽のような惑星はいずれ膨張し、超新星爆発を起こしたり消滅したりして、再び新たな星によるというサイクルが繰り返されているということも確かである。

こうした宇宙の研究に欠かせないのが天体観測であるが、人間が「見る」ことのできる可視光線はほんの一部である。<sup>(今では)</sup>人間の目では視られない赤外線、X線、電磁波、サブリミナル波などの光線で宇宙を観測することによって宇宙の真の姿が明らかになっている。このように科学技術の進歩により、人間の能力、機能を越えた多くの発見がほされるようになったが、宇宙の謎はまだまだ多く、日々研究が続けられている。

講義を受けて、宇宙の大きさ、人間という存在の微小さに圧倒される思いがした。今、「宇宙人」の存在は確認されていないが、地球が宇宙の本当に小さな一部で、そういう場所に人間という存在が生まれたということは、<sup>宇宙の</sup>「他」の場所で「<sup>私達が</sup>今この時」に「視えなくても存在している可能性は少くないのでは」と思う。

子供の頃、想像上のものをいると信じたのとはまた別の角度から宇宙人の存在を信じられて、有意義な講義だった。